

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第27号

発行：平成25年10月 OSS・EPRグループ(指定管理者)



イベント報告

●春の森祭り (平成25年4月7日)

毎年恒例のイベント「春のふれあいの森まつり」を開催し、34名の方にご参加いただきました。いっちんクラブ指導の下、シイタケの菌打ちやクラフト、森の生きもののお話やガイドウォークを行い、時折小雨が降る天気でしたが、子どもたちの明るい笑い声が園内に響き渡りました。



▲ シイタケ菌打ち



▲ 森の生きもののお話

●茶摘みと茶揉み体験 (平成25年6月8日)

晴れ渡る空の下、茶摘みと茶揉みの体験を行いました。当園では7年ほど前から、園内に自生しているチャノキを移植栽培していますが、今年ようやく茶摘みが出来るほどまで生長したため、茶摘みを行うことができました。イベントでは茶葉を摘み、炒って揉むという行程すべてを体験していただきました。参加者の方からは「普段体験できない事ができ、楽しめた」「来年の茶摘みも楽しみにしています」など嬉しい声をいただきました。



▲ 茶揉み



園外での広報活動

今年度は、より多くの方にふれあいの森を知っていただくため、出張講座や展示など園外での広報活動も精力的に行っています。

堺北花田阪急では4・5・8月にそれぞれ1週間程度、ウグイスの巣の標本やパネル展示、バッタなどの生態展示を行いました。他にもクラフト体験や、生きもののお話などを行い、沢山のご家族にご参加いただきました。また、6月には堺市立中央図書館にて2週間、写真展を開催しました。イベントなどの活動風景や生きものの写真約50点を展示し、こちらも多くの方にご覧いただきました。

園外に出て広報活動を行うことで、興味を持っていたき、里山の文化や動植物とふれあうきっかけとなる事を目指します。また、自然や文化が豊かな堺を一層盛り上げていけるよう、今後も他の企業や施設と協力して取り組んでいきたいと思ひます。



▲ 堺市立中央図書館



ポイントガイド

「ヤマモモ広場」と「ツツジの広場」

5月上旬、尾根みち上に「ヤマモモ広場」と「ツツジの広場」を新設しました。



ヤマモモ広場は木陰が多く広さもあるため、レジャーシートを敷き、お弁当を広げると、心地よい風が吹き抜けていきます。また、秋になると地面がどんぐりと落ち葉で覆われ、子どもたちの遊び場としても適しています。

ツツジの広場は、ヤマモモ広場ほどの広さはないものの、名前のおりツツジの開花期(4~5月頃)にはあざやかなピンク色に彩られた花々が、訪れる人を楽しませてくれます。



この二つの広場には丸太のベンチがあり、散策途中に休憩することもでき、より気軽に園内を散策していただけるようになりました。



▲ 堺北花田阪急 パネル展示



堺北花田阪急 クラフト体験▶

市民と共に作る里山

昔から今へ 風景の移り変わり

ふれあいの森が位置する南部丘陵一帯はかつてはアカマツ中心の里山で、薪炭林として人々が利用していました。しかし昭和40年代以降、石油や石炭などの化石燃料の普及に伴い薪や炭の利用が減りました。放棄された森は常緑樹中心の暗い森となり、かつての田畑は人の背丈以上のネザサや草などに覆われていました。ふれあいの森の建設計画が立案されると、公募で集まった30名の市民ボランティアを中心に、市民協働による森の保全整備活動が始まりました。何十年もの間荒れ放題だった森が、ボランティアの方々の地道な活動のお陰で、少しずつ昔の里山の風景を取り戻し、今では周辺地域では見られなくなった生きもの達が数多く生息する、豊かな森へと変化しています。

昔



今



昔



今



昔



今



御陵周辺 2

開園前は田んぼとして活用していましたが、現在は東西道路の高架橋があります。建設のために持ち込まれた土砂には、人工物も多く混ざり、それらを手作業で取り除いて農地として整備しています。

昔



今



昔



今



スゲ沼 3

周辺の尾根から雨水が集まり湿地となっています。開園前は、スゲ類の株があちこちに塊を作っていましたが、現在は整地され、間近でトンボやカエルなどの生きものが観察できる観察路も建設中です。

里道みち 6

かつては背丈を越すほどのネザサや低木に覆われていました、下草刈りを何年も繰り返した結果、現在の園路が出来ました。現在でも定期的の下草刈りが行われています。

森の館 1

開園前は、セイタカアワダチソウなど丈の高い草で覆われていました。森の館の建設に伴い整地され、現在はコナラやカスミザクラが移植され、森の館の前の広場ではお弁当を食べたり昆虫観察をすることが出来るため、多くの方に利用されています。



コナラの丘が出来るまで

*同じ場所で撮影しています。

コナラの丘(上) 5

春になると菜の花やレンゲが咲き、蝶やミツバチが蜜や花粉を集める姿を見ることができます。しかし、開園前は一面人の背丈以上のネザサが生い茂り、生きものの姿は殆ど見るできませんでした。しかし、市民ボランティアの方々の努力のお陰で、現在は生きものと触れ合える広場へと変化しました。

2004年8月28日



昔

ネザサは1本ずつ根元から剪定ばさみで切ります。気の遠くなる作業の始まりです。

2004年9月26日



切り取ったネザサは向きを揃えて集め、機械で細かく切り、堆肥として有効に活用されています。

2005年1月25日



はらっぱが姿を現しました。しかし、ネザサや草が生えるので、今でも1年に3回草刈りをします。

2005年9月17日



2005年9月17日



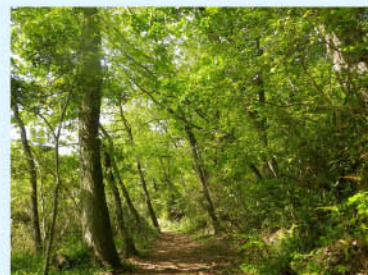
ボランティア募集中

ふれあいの森は、市民の皆様のサポートにより維持管理されています。現在「NPO法人いっちゃんクラブ」の会員の方々が樹林・農・調査・環境教育・クラフト活動をそれぞれ行っています。あなたも一緒に活動しませんか？詳しくは、ふれあいの森にお問い合わせ下さい。

平成25年4月より「ふれあいの森」に着任させていただいて、早6ヶ月が過ぎました。今までの業務内容から一転して、「里山の管理と活用」と言う自然にふれあう業務へと転身しました。転身したものの、人と自然の関わり方等の経験や知識はなく、日々古今奮闘しているしだいです。

「ふれあいの森」の第一印象は私が生まれ育った「故郷」にタイムスリップした感じを受けました。こんなに身近な場所に里山（＝故郷）があるにも関わらず、人と自然との繋がりが希薄になっている現在、もっと里山の自然を通じて心豊かに、ゆとりのある心を持つことの大切さを感じました。

ふれあいの森では、大阪府立大学増田教授の指導のもと、当初から活動されてこられたNPO法人いっちゃんクラブの皆さんと指定管理者（OSS・EPRグループ）との協働により、里山の保全・復元に向けた整備が行われています。いわゆる市民の方々の努力により育まれた里山公園として進化し続けています。



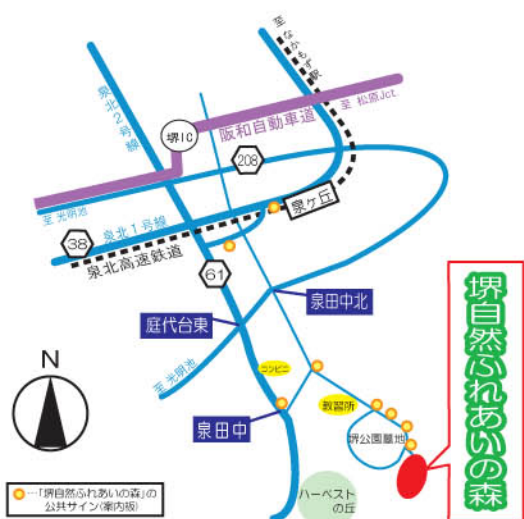
ここまで里山の保全・復元活動や森の学校として様々な体験学習の実施、クラフト教室等の運営を実施してこられたことに、この場をお借りして深く敬意を表します。ありがとうございます。

平成13年5月に「堺市緑の基本計画」が策定され、今年3月に基本計画の改定が行われました。その中で、ふれあいの森を含む南部丘陵は、シンボルエリアの1つとして設定されています。今まで培ってきた市民協働の取り組みやノウハウが、南部丘陵の緑地保全を進める上で大いに必要とされることでしょう。是非、みなさまも「ふれあいの森」に足を運んでいただき、里地里山の魅力ある風景を肌で感じていただければ幸いです。



今後も、この素晴らしい里地里山の自然風景の維持・復元活動を理解したうえで、次世代を継ぐ子供たちへ里山保全・復元の意義をわかりやすく伝えて「環境保護への配慮」も実践したいと考えます。ふれあいの森は、これからも市民協働で自然豊かな里山になぁーれ！！

交通案内



● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)
 鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
 ※日曜・祝日は、堺公園墓地行き 直行便有り
 「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5Km
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

●○●○●○●○ お問い合わせ ●○●○●○●○●○

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 OSS・EPRグループ(指定管理者)
※OSS・EPRグループは、大阪ガスコミュニティライフ株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。